

## 第21回 CIP学生賞 受賞者および作品一覧 (順不同・敬称略)

| 受賞学生氏名          | 学 校 名          | 学部・学科名                     | 受賞作品名                                         |
|-----------------|----------------|----------------------------|-----------------------------------------------|
| 岩田 夏帆           | 岐阜女子大学         | 家政学部 生活科学科 住居学専攻           | 8760 ―地域で守る家族の形―                              |
| 福田 羽和           | 大同大学           | 工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻       | 我は拡張する、故に我々は在る                                |
| 浅川 凜香<br>伊藤 南々葉 | 愛知工業大学         | 工学部 建築学科 住居デザイン専攻          | 廃墟と共に ―人新世における脱成長型計画論―                        |
| 堀田 楓乃           | 椋山女学園大学        | 生活科学部 生活環境デザイン学科           | 共に創る、晴れ上がりプロジェクト<br>―名身連第一ワークスを対象としたエントランス改装― |
| 中島 実和子          | 金城学院大学         | 環境デザイン学科 空間デザインコース         | 距離感をつくる集合住宅                                   |
| 杉本 桜            | 岐阜市立女子短期大学     | デザイン環境学科 建築・インテリア専修        | 自分で作る両面収納                                     |
| 横山 実玖           | トライデントデザイン専門学校 | 総合デザイン学科 インテリアデザインコース      | Nexus Vita Institute                          |
| 前田 有貴子          | 愛知淑徳大学         | 創造表現学科 建築・インテリアデザイン専攻      | 岐阜市民会館の改修計画 ―坂倉建築を引用した設計手法の提案―                |
| 徳田 優笑           | 中部大学           | 工学部 建築学科                   | マギーズホスピス ―支え合うコミュニティを育む場所―                    |
| 野口 彩花           | 名古屋造形大学        | 造形学科 造形学部 空間作法領域 溝口スタジオ    | Green University ―人と植物が調和する空間―                |
| 鵜崎 悠李           | 名古屋工業大学        | 社会工学科 建築・デザイン分野            | 残り家                                           |
| 加藤 素晴           | 愛知産業大学         | 造形学部 建築学科                  | 端材や廃材の利用方法の提案                                 |
| 早川 葵            | 名古屋文化短期大学      | 生活文化学科 ビジネス専攻 インテリアデザインコース | ECO Café                                      |

## 8760 ―地域で守る家族の形―

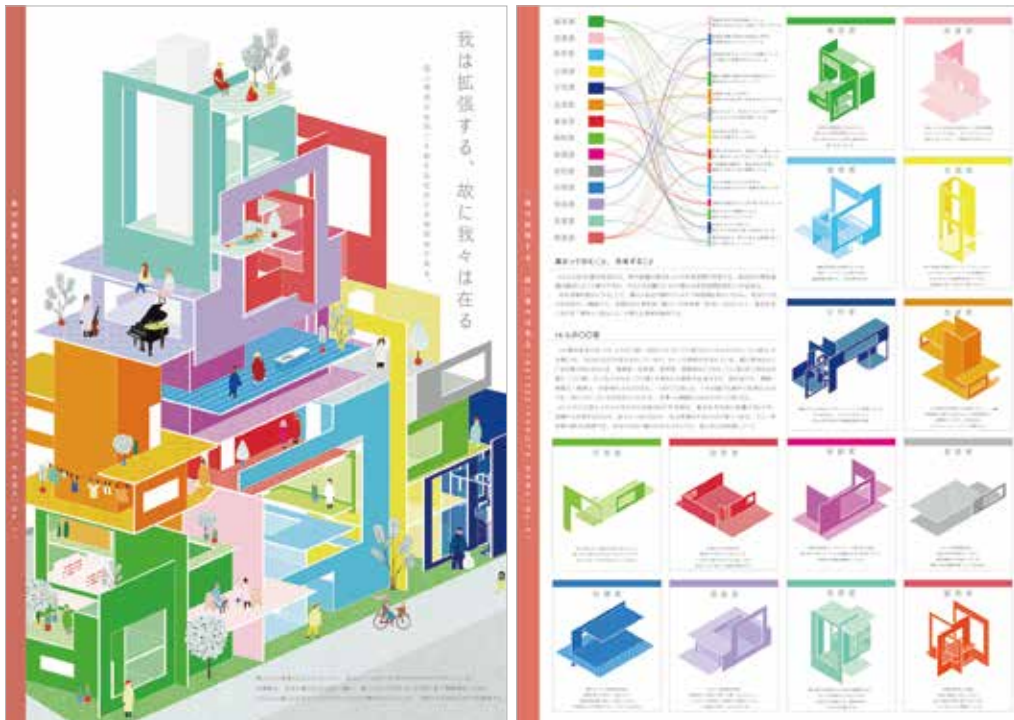


岩田 夏帆

岐阜女子大学  
家政学部 生活科学科 住居学専攻

働く女性に寄り添うことをコンセプトにした「24時間体制で育児をサポートする施設」の提案である。各空間を円で構成し、やさしいイメージを演出した。これから社会へ出ていく彼女たちが抱く不安を解消したいという思いが現れた秀逸な作品になっている。(富士 霸王)

## 我は拡張する、故に我々は在る



福田 羽和

大同大学  
工学部 建築学科  
インテリアデザイン専攻

個人と社会の間に介在する、新たな集合住宅の共有部の在り方を示した。専有部と共有部の干渉と拡張がもたらす公共性は、閉じた自宅と閉じた社会のあいだに生まれる新たな空間利用の可能性を示唆するものとして高く評価された。(船橋 仁奈)

## 廃墟と共に ―人新世における脱成長型計画論―

浅川 凜香  
伊藤 南々葉

愛知工業大学  
建築学科 住居デザイン専攻

現代消費社会は、次々と空間を消費し、一方で廃墟を生み出し続けている。我々は廃墟を単に崩壊した不動産という枠組みを越えたものとして捉える必要がある。本計画は、自然、芸術、文化の観点から廃墟の空間を演出するというアイロニーな提案を通して人々に新たな気づきを与える。(益尾 孝祐)

## 共に創る、晴れ上がりプロジェクト –名身連第一ワークスを対象としたエントランス改装–



片麻痺でも可能な塗装方法の模索、利用者の得意技術を活かしたクッション制作など、利用者と共に創ることを重視した実践プロジェクトである。施した造作はわずかであるが、予算管理、施工方法など創る過程すべてをマネジメントした作者の手腕を高く評価したい。(井澤 幸)



## 距離感をつくる集合住宅



中島 実和子  
 金城学院大学  
 環境デザイン学科 空間デザインコース



私たちは集合住宅の共用部で本当にコミュニケーションがとれるのだろうか。作者はその問題に正面から向き合い、共用部のあり方を模索している。話はしなくても存在を確かめ合える、新しい共同意識を芽生えさせる集合住宅の提案である。(白川 在)

横山 実玖  
 トライデントデザイン専門学校  
 総合デザイン学科  
 インテリアデザインコース



## Nexus Vita Institute



日本の法医学や解剖に対する低い認知とマイナスイメージを改善し、これからを生きる人々に繋げるアジア初のボディファームを提案。暖かさやぬくもりを感じる形状で計画し、難しくも真摯に取り組む姿勢が大変評価できた。(田淵 智子)

## 自分で作る両面収納

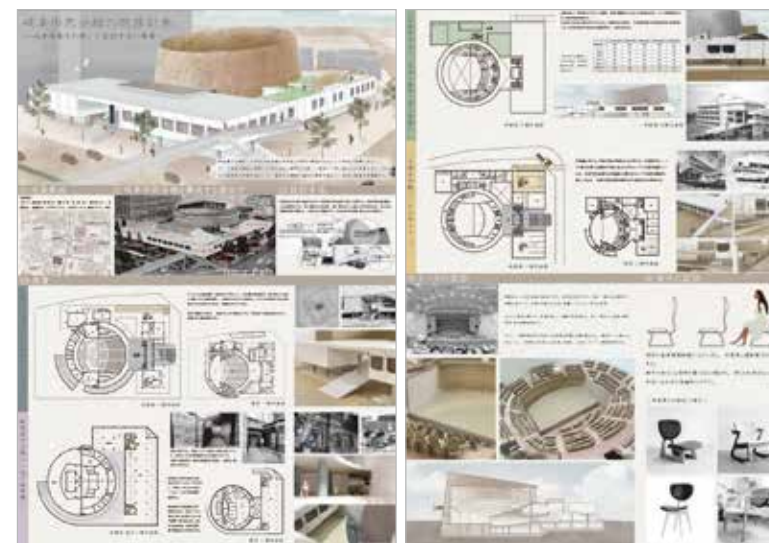
杉本 桜  
 岐阜市立女子短期大学  
 デザイン環境学科  
 建築・インテリア専修



使用者の要望に合わせて収納ボリュームを調整する組み合わせ家具であるが、表裏どちらの組み合わせも可能にし、裏の有孔ボードで引っ掛け収納も可能で、部屋のパーティションとして両面から使用できる組み合わせ収納の新しい使い方を提案した作品である。(加藤 祥子)



## 岐阜市民会館の改修計画 –坂倉建築を引用した設計手法の提案–



前田 有貴子  
 愛知淑徳大学  
 創造表現学部 創造表現学科  
 建築・インテリアデザイン専攻

近代の名建築を改修する際、元設計者のデザインをどう継承するか難しい。この提案では元設計者の他の建築から際立った要素を引用するというエクスキューズを発明した。さらに取り壊された建築を部分的に蘇らせることにも挑戦した意欲的な作品である。(諸江 一紀)

マギーズホスピス ー支え合うコミュニティを育む場所ー



がん患者とその家族、友人のための無料相談支援施設「マギーズセンター」を中心に、ホスピス・子供ホスピスを組み合わせた施設の提案である。心のケアと共にコミュニティの形成を促す多様で温かな空間の丁寧な設計が高く評価された。(山岸 綾)



中部大学  
工学部 建築学科

# Green University ー人と植物が調和する空間ー

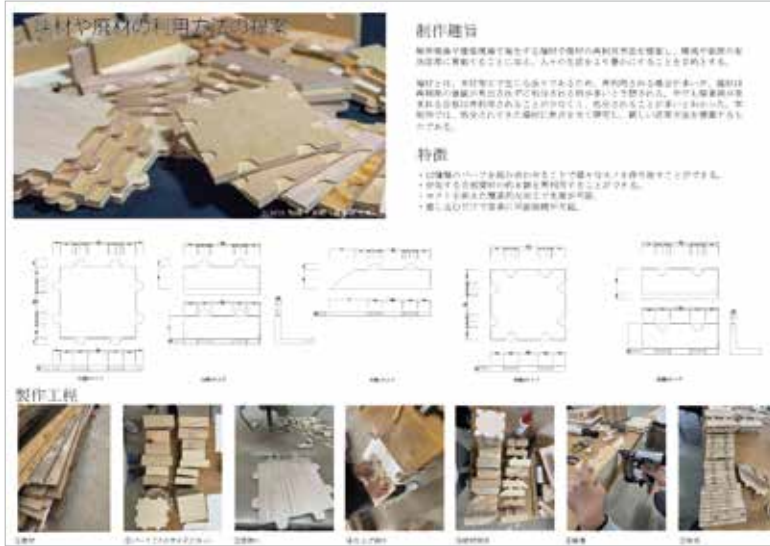


名古屋造形大学  
造形学部 造形学科  
空間作法領域 溝口スタジオ

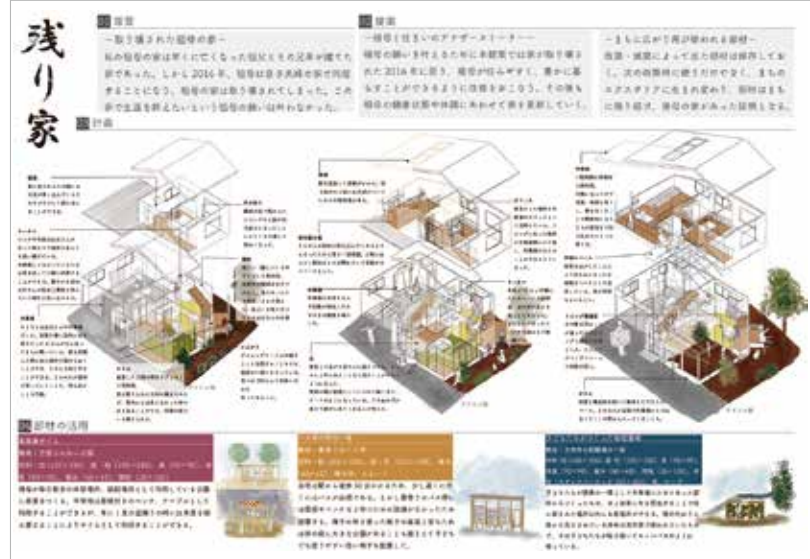
日常から植物をこよなく愛する作者は、新キャンパスの人工的環境を変えたいという強い問題意識によって、卒制で詳細な緑化実験とそれに基づく屋外屋内の緑化リノベーションデザインを計画。「建築とは人にとっていかにあるべきか」を考えさせられる提議として心に残る作品である。(溝口 周子)



愛知産業大学  
造形学部 建築学科



加藤さん独自の視点と創造性を発揮した作品であり、廃材の活用方法を一方的に提案するものではなく、使用者自身が資源の活用方法を模索できる工夫が見られる点を高く評価します。(森本 達也)



## 端材や廃材の利用方法の提案



名古屋文化短期大学  
生活文化学科 ビジネス専攻  
インテリアデザインコース

環境問題を考えることができるカフェを提案。海洋汚染につながるプラスチック等を回収してインテリアの素材、エレメント、使用する食器などを提案し、ワークショップなども行う空間を3Dパースを使用し詳細にデザインすることができた。(木邊 智子)

